



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年3月1日

3月号・第170号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



育苗ハウスの改修

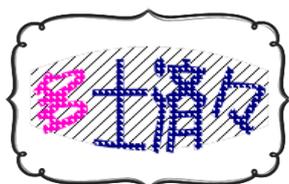
## Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多士済々	1	やさしい昆虫講座	14
Monthly Repo.ならやま	2	青垣春秋	15
里山の今	3・4・5	俳句百景	16
1月新春講演会・報告	6	癒しの散歩道&ならやま茶論	17
2月歴文研修会・報告	7	ギャラリーならやま	18
進路ガイダンス・報告、字遊字感	8	ならやまプロジェクト	19
「鳥」シリーズ	9	行事案内 part1・part2	20・21
28年度年間計画・月例研修会	10・11	行事予告・仲間入り・奈良学クイズ・旬菜旬食	22
年間計画・自然教室&歴文	12.13	幹事会報告・編集後記	23



心優しき 肝っ玉母さん

池田 富子 さん

顧問 川井 秀夫

骨太で立派なご体格。

先年、歴文クラブの高野山一泊旅行の際、法話の席で杖を片手に椅子席にでんとお座りの姿が印象的で、正に女貫主の威風を感じたものでした。

ならやまでは夫君の敬二郎さんとおしどり夫婦として、炊事の献立に腕を揮って頂いております。非常にお人好きの方で、人の集まる場所へは積極的に参加され、当会の各種イベント、例研・歴文行事、「のらの会」にも参画され、その存在感に圧倒されております。



生粋の奈良人。

法華寺町にお住まいで、少しヤンチャな敬二郎さんと二人三脚で余生を楽しんでおられます。ご本人は謙虚に話されますが、なかなかの起業家で、奈良小西通りにあるPEOPLES IN N「H」で、20年余り経営者の右腕として七面六臂の運営手腕を発揮されました。東奔西走を厭わず親分肌でご活躍の往時の姿が目に見えます。

その後、ご自身で青果関係の販売ビジネスを起こされ（当時の仲間が当会に二、三人おられます）時に大儲けしたよと呵呵大笑されておられました。

多才な方

で何でもやるんですが、「踊り」「楽器」「歌」が苦手で駄目なんですよと仰る。それでも先日カラオケで私と美空ひばりの「みだれ髪」を熱唱しましたが、持ち前の可愛い声でなかなかの歌声で拍手喝采でした。入会直後には、短歌の仲間と遊びに行くんですが、私は俳句を作ってゆくので見て下さいと、メモを渡された事がありました。その句は思い出せませんが、あれ、この方が風流な世界に興味をお持ちなのかと吃驚したものでした。



夫君の敬二郎さん

とも年域が近い事もあって良く話が合います。釣りの大家であり料理のシェフもなかなか、工具の研磨も玄人はだし、と。私がもう少し若ければ釣りの世界で弟子入りしたのですが、目下ご療養中と聞き残念でなりません。ご快癒を祈ります。

わが里山はノルマのないパラダイスであり、近い将来桃源郷と言われる楽園にしたいと、念願しております。ご両所の花も実もある才能を期待しております。

♪ 婀娜な姿のお富さん

エッサホー玄治店 ♪ (平城店)

と置き換えますか。

**Monthly Repo. ならやま**

八木 順一

**1月28日(木) 活動 晴れ後曇 61名**

久しぶりに午前は暖かい活動日になったが、やはり午後からは寒くなった。打ち合わせでは新春講演会やシニア進路ガイダンスの報告が主なものであった。

里山Gは来月のGG準備のためのクヌギ周りの根切りやまき割り、エコGはエンドウの支柱たてや水田への施肥作業に取り組む。また景観Gは竹



の伐採やその処理のほかビオ班はドジョウ池の深堀と花班のホウズキ等

の栈作りにと汗を流す。またパト班は第3コース巡回に向かう。

**2月4日(木) 活動 晴れ 64名**

今年2回目の山一斉作業。予定では午前中ということだったが、沢山の会員の参加・協力で11時過ぎには作業も終了。打ち合わせでは一斉作業の段取りやサイト内の故障したトイレの修理、そして女子用更衣室の新設について連絡・依頼が行われる。里山Gは皆伐地の処理や今月開催予定のシイタケイベントの準備、エコGは冬野菜の畑の処理や溝ほり等を行う。また景観Gは梅林への寒



肥施肥を中心にビオ班のドジョウ池整備、花班はアジサイ畑の草取りや寒肥の施肥に時間をかける。その他パト班は第1コース巡回とミーティングを行う。

**2月11日(木) 活動 晴れ 61名**

暑いほどの日和になり、日中は冷たいものが欲しくなるような一日だった。各Gともイベントや春の収穫に向けての準備に佳境を迎える。特に今月の末に行われるGGの準備に向けては、大変な作業が続く。スケジュール調整は勿論のこと、場所や物品そしてスタッフの参加確認等々まだまだ詰めなければならないことがいっぱいある。無事にイベントが終わるようにと、祈らざるを得ない。

朝の打ち合わせでは、GGやトイレ修理の件等について連絡。午後の打ち合わせでは最近増えている落し物や忘れ物には十分注意して欲しいと注意喚起を行う。また昼にはGG打ち合わせとEM菌の講習会が行われる。

**2月18日(木) 活動 晴れ 58名**

風はまだ少し寒いですが、素晴らしい青空に恵まれた活動になった。朝の打ち合わせの後、全員でBC近くの畑の伐倒木の後片付けを協力して行う。最近こういった作業を行う機会も増え、サイトも美しくなるとともに、会の一体感も一段と増してきているように思われる。里山Gはこの作業のほか薪の玉切り等に、エコGはビニールハウスの整備に時間を費やした。また景観Gは第5地区の防草シート張りに加え、ビオ班のフェンス沿いの植樹準備作業、花班も山野草園の整備に取り組んだ。そしてパト班は本日は第3コースを巡回する。



打ち合わせでは、トイレ修理完了の件や朝の一斉作業の依頼、その他旅費支給の件についても触れる。また終礼では備品等の使い方や保管について担当からお願いがあった。肝に銘じたい。

## 里山グループだより

伊良子和夫

### ◆伐倒訓練 Part2

先月号でも伐倒訓練が紹介されていましたが、今回も再度その模様をお伝えします。

まずはNさんが訓練に取り掛かりました。安全の為、既に伐採されている木を使つての練習です。伐採されたさらに下を切るの、水平に切るのが難しそうです。受け口、追い口を切ったところでリーダーの講評です。低いところを切るときは腕だけ下げて切るのではなく、体全体を下げて切らないと水平には切れない。受け口、ツル、追い口を正しい比率で切るには、初めのうちは尺で測り、印をつける。百本ぐらい切ったら印なしでも行けますと説明。

次はHさんが直径20cmほどのまっすぐに伸びた杉の伐採に取り掛かりました。リーダーの言われたように、倒す方向を定めて、尺で3:1:6の比率で印を付け、受け口を切り終え、追い口を切り出しました。手前はまだツルの部分が残っていたのですが、突然伐採方向とは逆に木が倒れ出しました。みんな慌てて退避しました。リーダーの切り口を見ての講評です。手前はツルが残っているが向こう側はツルの部分がなくなっている。ツルは丁番の軸の働きをして受け口が丁番のように閉じるので受け口の方向に木が倒れる。ツルがなくなれば、軸のない丁番がバラバラになるように、木はどちらに倒れるか分からない。追い口を切るときは向こう側の状態もよく見て慎重に切るようにと説明。確かに、ベテランが切った木はツルがきれいに残っています。

反対方向に倒れた木のため、柿の木が折れてしまい、訓練後その処理をしていました。その時、枝を切ろうとして指を切ってしまいました。厚手の皮手袋をしているので大丈夫だろうという気の緩みがあったのだと思います。

常に慎重に作業することの大切さを実感する一日となりました。

「安全第一」で行こう！



## エコファームだより

木村慎司郎

葉物野菜は冬が美味しいとは、昔から言われていることである。冬枯れの中で、根菜を含めて秋蒔きの野菜は、今が味わいの収穫期である。

白菜、大根、水菜、葱、法蓮草等々を、凍てついた土中から抜き取る。収穫後の畑に、堆肥を入れ、耕して、土作りをする。大地との関わりを実感する時である。

生態環境の破壊は、レーチェル・カーソン「沈黙の春」の警鐘によって強烈に意識させられた。農業経営の場でないエコファームでは、当然ながら有機栽培が主体となる。自然物質の循環を象徴する様な、草木葉チップの熟成堆肥散布は、古来の風景にそぐわしい。微生物の有機物分解による発酵臭も、豊饒の春を期待させる肥沃な大地の匂いである。

「田園<sup>まさ</sup>將<sup>あ</sup>に蕪<sup>なん</sup>れなんとす 胡<sup>なん</sup>ぞ帰らざる」。田園詩人・陶淵明の詠嘆は、故郷への懐旧の情と共に、自然人として本能的な土への愛着心もあつたであろうと考える。同じ思いで、畑の土を起こし土塊を砕く。甦る畑に、かつてこの地で生計を得ていた古人は、どのような感懐を抱くであろうか。

「上農は土を作り、上々農は人を作る」とか。身体を動かし、会話し、更に心は自在の空間に遊ぶ。田野にありて、あたかも竹林の七賢の境地。

通りがかりの人が、「あれは何ですか、蕪ですか」と尋ねる。暗緑色の葉蔭に盛りあがる白い半球は桜島大根。シラス台地の特産物も、大和真菜と共存するかの様に奈良の地に順化してきた。

寒風に晒されて破れたハウスのビニール覆いを張替えて、春蒔きの苗床の備えとする。内部の地面は、こころなしか、促されるように蠢動の気配が……。

名残りの寒鴉が、柿の樹上から、里山と点景の人を見下ろす日々である。



## 景観グループだより

西谷 範子

### ◆冬を彩る寒咲花菜

本来菜の花は春の花ですが、花の少ない冬（寒）の時期に咲くように改良された園芸植物です。テレビなどで一面の菜の花畑が映りますが、よほど暖かい所を除いて、ほとんどがこの寒咲花菜です。

アブラナ科アブラナ属で、食べられますが、これはあまり食べずに、花を觀賞するためと花の少ない時期の養蜂の為に栽培されます。

普通の菜の花は、10月頃種を蒔いて苗で越冬させ、3月頃から花を咲かせますが、これは9月頃種を蒔いて12月頃から咲かせます。

今年はならやまの東の方の道沿いの花壇に栽培しています。

ところが、本来12月頃から咲くはずが、11月の暖かさで一気に咲いてきました。

菜の花は花をつぎつぎに咲かせながら丈を伸ばして行きます。12月には1mにもなった菜の花畑が出現しました。

寒い時は苗は根張りをしてしっかり太い株になるのですが、あまりの暖かさに細いまま伸び過ぎましたので、1月の大寒波と突風で倒れ込んでしまいました。

道路側から見るととても見苦しくなりました。花組総動員して、(と言っても6人ほどですが) 柵を作るやら竹の杖に結び付けるやらして無理やり起こしました。写真はその時の作業風景です。毎年作っていますが、アブラナ科は連作を嫌いますので、場所は毎年変えています。

もうすぐすると、虫たちの饗宴に一喜一憂です。



## パトロール班だより

菊川 年明

### ★自然観察路の整備

自然観察路の急峻なところなど危険な箇所には丸木の階段を設置したのは、一昨年の年初から春先にかけての時期であった。その後は不安な箇所に順次安全ロープの設置を進め、現在では16箇所までに及んでいる。そのほか、手を支えることができる杭だけのところも3箇所設けた。

一昨年に設置した丸木の階段は2年が経過して踏み面の丸木を支える杭が、随所に腐朽を生じ、踏み面の丸木も一部に腐朽が見られるようになった。問題が生じた箇所にはその都度応急措置を施しながら安全確保に努めてきたが、ある程度まとまった補修が必要という状況になっていたため、今年の年初から、かなり抜本的な改修に取り組んできた。

観察路には要所ごとに番号を付したポイントポールが立ち、諸所に経路の方向や地点名を示す案内板も立っている。また、主だった樹木や珍しい樹木に名札がたくさん取り付けられている。これらはいずれも守口さんの労の積み重なったものである。おかげで観察路の体裁が整ってきた。佐保自然の森に植えられている木々にも名札が整った。こちらは小島さんの労による。

観察路の周辺は、2月上旬からアセビの白い花が開花し、順次クロモジが小さな黄色い花を、ヒサカキが小さな白い花を咲かせ、3月下旬にはコバノミツバツツジのピンクの花で爛漫になる。

今後の課題は落枝倒木対策で、安全確保上たいへん難題であるが、とりあえずは風が強く、木の枝が大きく揺れるようなときには観察路へ立ち入らないことが肝要である。



**ならやま虫だより**

菊川年明

◆クロコノマチョウ

今年は3月5日が24節季の啓蟄である。啓は「開く」、蟄は虫に関係のある意味では「土中に閉じこもる」ということで、啓蟄の意味としては「土中に閉じこもっていた虫が現れる」ということである。しかし、この時期は、暦の上では春であるが、まだまだ余寒が厳しく、昆虫が姿を現すのは、大勢としては3月も下旬になってからである。

そこで、まだ冬ごもり中の昆虫から話題を一つ。

ジャノメチョウの仲間クロコノマチョウというチョウがいる。翅の表裏ともに黒褐色又は黄褐色の、地味な、目立たないチョウである。昨年晩秋のある日、彩りの森でこのチョウを見かけた。このチョウは翅の表面を見せて止まることは極めて希である。しかし、この日は極めて希なことにこのチョウが翅を全開して止まっているところを目にした。このチョウは成虫で越冬するので、このチョウもきっと林の中のどこかの落葉の上などで寒さを凌いでいると思われる。

このチョウについて少しご紹介すると、年に2回、夏と秋に発生し、秋型が成虫で越冬する。翅の色は、夏型は黒褐色、秋型は黄褐色である。翅を休めるときに見せている裏面は枯れ葉そっくりの色彩で、止まるときはたいてい落葉の上なので、姿が周囲に溶け込んで隠れてしまう。さながら忍者である。餌は花の蜜ではなく、樹液や熟した果実の汁などである。したがって花に来ることはなく、時には獣糞の上にいることもある。最近をよく見かけるが、以前は少し珍しいチョウであった。写真は今年の晩秋、彩りの森にいたクロコノマチョウの2態で、左は裏面、右は表面である。



**ならやま花だより**

平岡 久美

早春の畦や土手に立つと、可愛い草花が目に入ります。今はまだ、遠慮がちに見えますが、本格的な春を迎える頃は、一斉に競い合っ見事な野の花畑となることでしょう。一方、里山林には花らしいものは見つかりません。枯れたように見える木ばかりですが、よく見ると葉芽や花芽がしっかり準備をして春の訪れを待っています。

ザイフリボクの蕾が膨らんでいるように見えます。蕾の中から白いものが見えるので、もう花が開くのかと驚いたのですが、そんな筈はなく、芽鱗（葉や花になる芽を保護する鱗状の小片）から覗く白い毛のようでした。



冬芽

**ザイフリボク**

(別名シデサクラ)

- ・花期 4月から5月
- ・花弁 5枚
- ・実 黒紫色 9月~10月
- ・花弁が細長く采配の様に  
見えることからこの名が  
ついた。
- ・綺麗な冬芽は、ネジキ、コクサギとともに、三大美芽の1つとされている。



花

【草花】 ナズナ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ハコベ、セイヨウタンポポ、オランダミミナグサ

【草の実】 ヘクソカズラ、ツルリンドウ

【木の花】 ソシンロウバイ、ウメ、アセビ

【木の蕾】 ヒサカキ、コバノミツバツツジ、クロモジ、ヤマボウシ、ミツマタ、ザイフリボク

【木の実】 マンリョウ、シロミノマンリョウ、シロミタチバナ、ノイバラ、ヤツデ、センダン

【花壇】 ジンチョウゲ、ショカツサイ、キンギョソウ、スイセン、カンザキハナナ

## 新春講演会 報告

開催日：平成28年1月23日(土)

13:30~15:50

場所：奈良市インフォメーションセンター

講師：吉村 文彦 京都大学農学博士

- ・京都大学大学院農学研究科博士課程修了
- ・微生物生態学者
- ・元岩手県「岩泉まつたけ研究所」所長
- ・京都・岩倉「まつたけ山復活させ隊」代表

演題：「里山は重要な生態系」

— “万葉の里” にまつたけの夢を見る —

聴講者：56名(会員48名 外部8名)



吉村文彦先生

・講演に先立ち午前中、「まつたけ山復活させ隊」の会員6名の方を同行され「ならやまF」を視察されました。

### 【吉村先生の「ならやまF」視察のご感想】

『環境が素晴らしく、良く整備されている。アカマツ林が少ないのに驚いた。中央皆伐区は数年で多様な実生植生の発生が見込まれる。以前はアカマツ林であったと思われるので、マツ林に戻すのも選択肢の一つではないか。第5地区北斜面のマツは、うまく手入れすれば良いアカマツ林になる。枯損木の伐倒、障害灌木を繁茂させないようにすることが肝要と思う。』

### 【講演要旨】

1. 奈良は、日本で最初にまつたけが採れた地皆さんの「里山復活活動」の中でぜひ「まつたけ復活」にも取り組んでほしい。私たちも応援したい。今や「まつたけ」は絶滅危惧種に近い。
2. 里山の放棄によって生物多様性が低下

・「里山」は、農業(材、薪炭、芝刈、落葉、刈敷などの採取)たたら式製鉄業、窯業、酒造り業など人の生産活動の場であった。1960年代に入り、エネルギー源の変化—薪炭・石油から、プロパン・石油へ転換—、化学肥料の全面使用—刈敷・柴・落葉など不採取—などの生活の近代化により、里山は放棄され荒廃した。

・人為が加わらない里山は、その植物相が急速に変わった。見た目には緑が豊かであるが、樹種間の生き残り競争に勝った植物中心の林になり、アカマツもこの環境変化の中で急減した。

そこに住む多くの動物も変化をきたしている。

・里山という生態系に適応して共に生きてきた生物の多様性が低下した。

### 3 まつたけ発生量の減少

- ・戦中、戦後復興期、1960年代の大量伐採、1970年代の松枯れ病
- ・土壌の富栄養化等里山放棄による生息適地減少
- ・国産まつたけの生産量推移—最盛期 1941年約12000トン、40年代約5800トン、60年代約1700トン、70年代約700トン、2014年約40トン

### 4 まつたけは時代を通して日本人に好まれる

・季節の移ろいを大切にする日本文化が、日本人にまつたけの香りを五感で楽しむ喜びを与えた。奈良、平安、鎌倉、江戸時代を通して貴族や高級僧侶たちなどに好まれた。

### 5. アカマツとマツタケは共生関係

- ・マツタケはアカマツの根に感染して共生関係で生育する「菌根性」のきのこ(菌類)である。お互いに栄養源を与えあっている。
- ・マツタケ子実体の傘の裏から飛び出した400億個の胞子が菌糸を作りアカマツの細根に感染して菌根ができる。感染して共生が始まってもマツタケが採れるとは限らず、アカマツとマツタケの関係は非常に微妙で、不明な点が多い。

### 6. マツタケの林地栽培

- ・マツタケができる最低の必要条件は①若いアカマツ林があること②適正な土壌条件③近辺にマツタケの発生があることだが、重要なポイントは土壌。
- ・土壌の富栄養化を防ぐため「地掻」は最も必要な整備作業となる。

(寺田 孝)

## 2月・歴史研修会

### 筋違道・太子道を歩こう

2月16日(火)、オプション行事として、2月度研修会を行った。当日は、寒波来襲により最高気温が9度との予報だったが、28名の参加を見る大盛会となった。

飛鳥の宮と斑鳩の宮をつなぐ筋違道は、斑鳩の宮造営に合わせて造られたと言われ、聖徳太子の命日に因んで、その事績を偲ぶ研修会となった。

近鉄黒田駅で、研修資料や通過する各町(田原本、三宅、川西、安堵、斑鳩)の観光資料が、配布された。この地域には、聖徳太子を敬慕する多くの伝承のほかに、三宅古墳群や治水事業に係る杵築神社、伊勢参りなどの豊かな史跡が残る。

最初の訪問地：孝霊神社で、川井代表の挨拶と孝霊天皇についての解説があった。孝霊天皇は欠史8代の一人で、記録に乏しい。今年は紀元2676年に当たるが、日本の歴史を古く見せるために、日本書紀の編纂時に、架空の天皇を作ったり、在位年数を長くしたとのことである。

太子道について、森さんが研究成果を発表された。この後で作られる官道(下ツ道など)と同規模の幅20m位の立派な道だったことが、発掘調査で確認されている。都が平城京に移った後は次第に衰退し、現在は、一部に痕跡を留めるのみである。今回訪れた安堵町の約1kmと三宅町から田原本町の約3kmの直線道路が、その痕跡と考えられている。

インターネットの「ワトソンのページ」では、GPSを使った色々な発見が報告されているが、詳しいことは森さんへご質問くださいとのこと。

コースの各所では、歴史文物知り博士達の説明が面白く、なかなか予定通りに進まない。黒田大塚古墳では、古墳の頂上に登り四方の山々を眺めた。

この付近には杵築神社が数多く点在し、4箇所を訪ねたが、いずれも素戔鳴尊を祭神としていた。どの神社にも古い絵馬が飾ってあり、「おかげ踊り」や「なもで踊り」などである。

屏風(地名)には、杵築神社と白山神社があり、聖徳太子の休憩された場所と伝承されている。聖徳太子の銅像を背に杉本さんの「聖徳太子の解説」があり、太子が摂政就任後に、推古天皇、蘇我馬子とトロイカ体制で政治を行い、「十七条の憲法」「遣隋使派遣」など数々の事績を残した。

観世流発祥の地とされる面塚では、古川さんの解説があり、「観世世阿弥」、天から翁面とともに降ってきた「結崎ネブカ」、果ては、ならやまで栽培された「大和伝統野菜」にまで話が及んだ。

この辺りでかなり遅れが深刻となり、歩行速度を上げ、糸井神社を通過、何度か道を間違えながら、油掛け地藏、吐田杵築神社と進む。

安堵町は富井さんの地元である。地域の役員をされている斧田さんの案内で「馬場塚」を見た後、昼食場所の中窪田の杵築神社に到着。杵築神社には富井さんの尽力で、お祓いと社務所の利用をお願いしていた。

まず、稲熊宮司(大神神社で定年まで権宮司を務められた)による大祓いと安全祈願が行われ、全員で玉串奉奠を行う。破格の扱いに恐縮して社務所に入ると、驚くことに、温かい野菜の味噌汁とお酒まで準備されていて、一同、感激・恐縮しながら昼食を頂き、神社を後にする。

すっかり元気を回復した一同は、飽波神社(安堵の総鎮守社)、広峰神社(素戔鳴尊が祭神、聖徳太子の飽波宮跡とされる)、上宮遺跡、成福寺(飽波葦垣宮跡とされる)を歩き、予定より1時間ほど遅れて、JR法隆寺駅に到着した。



飽波神社にて

(坂東久平)

## 進路ガイダンス報告

1月24日(日)午後1時より鶴見緑地花博記念ホールにてシニア自然大学校の講座生を対象とした進路ガイダンスが開催され、当会からは同大学OBの藤田会長、事務局辻本、小島、青木、宮崎の5名が入会勧誘のため参加しました。

当日は、記録的な寒波の襲来も予想され講座生の方々の出足が心配されましたが、穏やかな天候となり、ホール内は講座生の方で埋まりました。

午前11時過ぎ、当会ブースの飾りつけ開始。当会の活動内容を分かり易く伝える為、昨年同様「ならやま」での活動並びに小学生児童を対象と



した各種イベントを中心に自然観察会、歴史文芸研修会、蕎麦クラブの活動等、当

会の活動を写真で幅広く紹介しました。午後1時から始まった40分のオリエンテーション終了後、講座生の皆様は一斉に、壁際に設営された各種団体のブースを訪問。それぞれ自身意中の団体ブースを訪問され、会場は一気に熱気に包まれました。開始からの30分が勝負。私達のブースにも沢山の人が来られました。



そんな中、突然背後から「先日は大変お世話になりました。」の声。振り向けば実習体験で活動に参加された講座生の方の懐かしい顔、顔、顔…。

勿論来場者名簿にもお名前をご記帳いただきました。今春4月には沢山の方が新メンバーとして参加される事を期待して、無事今回の使命を終えました。ご協力いただいた幹事の皆様お疲れ様。有難うございました。(辻本 信一)



大澤教男さん

森林インストラクター資格試験  
合格おめでとうございます!!  
(27年度)

森林インストラクター資格試験は、年に1回実施され9月一次筆記試験、11月2次実地試験(東京)翌年1月合格発表のスケジュールで実施されています。合格率は20%程度で推移していて、行政の関係者や森林関係の諸団体の職員等が受験することが多い資格試験です。大澤さんは見事難関を突破されての合格です。お目出とうございます。

既に現場作業をマスターされ、青少年のご指導もお得意です。日頃最前線で活動しておられる多忙さにもかかわらず、研鑽され資格を取得されました。資格取得者の役割は「森林を利用する一般の人々に対して、森林や林業に関する知識を与え、森林の案内や森林内での野外活動の指導を行うもの」とされています。大澤さんのこれからのますますの活動が目に見えます。

国土の67%が森林である日本は、山国と言えるでしょう。気象条件、地理的条件が満たされていて裸地となっても復元する力がある恵まれた自然環境があります。森林の持つ計り知れない多様な働きが多くの人々に理解されていません。また林業に対する関心は低く、輸入材に頼る状態が長く続いています。里山が放置され、膨大な人工林が手入れ不足で荒廃しているのが現状です。そのような中で2020年開催オリンピックのスタジアム設計図は、奇しくも応募2団体とも材木を取り入れ周辺に緑を配したものでした。今の社会全体があまりにも自然から遠ざかり、自然の恩恵を粗略に扱ってきたことへの良き反動であれ、と願うものです。地球エネルギーの根源を作る森林に、多くの方が目を向けて下さる事を願い、自然の不思議への驚きと感動に人々が接して欲しいと願います。(阿部 和生)

# 鳥シリーズ 3月号

## スズメ 小田久美子

西田好恵さんの「スズメのお宿 観察日記」

野鳥の会奈良支部の2014年1月号に載った、西田幹事のすずめの子育ての記事を、ご本人と支部に転載の了解を得た上で纏めてみました。

奈良支部では矢田山で里山保全（元の状態への復元）のため、竹とり作業をしています。小鳥の巣箱かけの一環として、その廃材の竹をスズメの巣箱に利用してきました。

観察日記ですので、臨場感あるとても良い仕上がりになっています。紙面の都合上制約がありますので、私がおの経緯を纏めました。出来栄が気になるころですが、2013年春の記録です。

- 巣作り** 2/24 竹筒の中に巣材発見
- 3/3 中でごそごそ気配がする。
- 3/9 3/14 巣材に羽毛・芝桜・犬の毛
- 3/24 2羽で巣箱に入入り

- 抱卵** 4/4～（約2週間？）抱卵が始まる。
- 4/22 卵がおちて割れる。

- 育雛** 4/25～（約16日+α）
- カラスの仕業か？ 大量の巣材が引き出されるが、放棄せず頑張っている。

- 4/27 卵2個落下
- 4/30 この時期、親は5分に1回の頻度で餌運び。
- 5/6 親鳥以外のスズメが巣の入口に止まって巣穴を覗く。親は激しく威嚇。19時過ぎ親鳥が巣を離れた、雛だけで眠るようだ。
- 5/7 5/9 他の個体やイソヒヨドリなどが来て親鳥が威嚇。かなり神経質になっている。
- 5/11 7時25分雨の中弱ったヒナが巣から落ちた。親鳥が巣に戻った時、ヒナに優しく鳴くのが増える。餌をねだるヒナの顔が初めて見えた。ヒナは自分でお尻を外に向けてフンをする。
- 5/12 6:30 ヒナが巣から顔を出し、巣の中で羽ばたいたりして、動きが活発になる。

**10:45 巣立ち!** 十分飛べる状態での旅立ち。

### ■2回目の子育て

- 5/12 ヒナが巣立ったその日に交尾し、巣へ出入りする。夕方にはヒナの死骸が2つ捨てられ

ていた。巣が空くの狙っていた別のペアが、早速繁殖を始めたのかもしれない。まさに空き室待ち?の住宅難なのだろうか。

■**まとめ** 1回目の繁殖は巣作り開始から巣立ちまで2ヶ月半だった。落下した卵が5個。巣立ち直前に落下したヒナが1羽、巣立ち後に巣から捨てられたヒナの死骸が2羽だったので、少なくとも9個は産卵したようだ。**無事巣立つことが出来たのは9羽中たった1羽**という非常に厳しい結果となった。

カラスに巣を荒らされたりするハブニングや、寒さも大きく影響したように思われる。体温調節が下手なヒナには厳しい季節。寒さが餌にも影響があったと思われるが、実際のところはどうなのか。

1回目の経験から、今度こそと臨んだ2回目。でも自然はそんなに単純ではなく、2回目の繁殖ではまだ飛べない状態のヒナたちたちが次々と巣箱から出てきてしまった。戦略なのかハブニングなのか不明だが、巣の外でもヒナは親を呼び続け、親もちゃんとヒナの声に応じて世話を続けた。結果は、孵化直後死亡1羽、巣立ち前死亡1羽、巣立ち雛4羽で、**6羽中4羽**が育ち1回目より成功率が上がった。

繁殖期はまだ先だが、涼くなった頃にスズメがやって来るようになり、ベランダに巣材が散らばっている。秋のうちから優良物件探しが始まるのか、住宅難は続く。



(撮影 西田)

## 平成 28 年度月例研修会年間計画

平成28年度の月例研修会年間計画をお届けします。今年度は、地元奈良のほかに、京都や大阪方面も積極的に取り入れ、バラエティーに富んだ企画に心がけました。10月の一泊研修旅行と1月の新春講演会は、当会15周年記念行事です。多くの方のご参加をお待ちしています。

月	日	曜	概要	主要行先	担当幹事
4	04	月	「伏見桃山城ほか伏見の桜」 (お花見ハイク)	桓武天皇陵、伏見桃山城、御香宮神社 寺田屋、宇治川派流、月桂冠大倉記念館	川井 青木 寺田
5	11	水	「新緑の奈良公園」自然観察 (自然観察会)	奈良公園(飛火野、春日大社周辺など)	辻本 倉田
6	14	火	「矢田丘陵」歴史散策 (歴史文化探訪)	富雄丸山古墳、矢田坐久志玉比古神社 東明寺、矢田寺など	中井 坂東 西谷 寺田
7	19	火	「鞍馬寺から貴船神社へ」 (清涼ウォーキング)	叡電鞍馬駅、由岐神社、鞍馬寺本殿金堂 木の根道、貴船神社、叡電貴船口駅	山中 永井
8	03	水	【夏季研修会】「草津市立水生 植物公園」「琵琶湖博物館」	最盛期の群生ハス他各種水辺の植物観 察と琵琶湖の全貌の学習	羽尻 小山
9	27	火	「天王寺公園から大阪上町 台地」の大阪史跡めぐり (街歩きウォーキング)	天王寺公園、四天王寺、一心寺、安居神 社、夕陽ヶ丘、生國魂神社、心眼寺、三 光神社、聖マリア大聖堂、玉造稻荷神社	川井 田中(克) 山本(妙)
10	18	火	<b>15周年記念行事</b>	第1日目 岡山県立自然公園	鈴木 小島
	19	水	【一泊研修旅行】 「岡山県立自然公園」「蒜山高原」	第2日目 蒜山高原一塩釜の冷泉、鬼女 台展望、ワイナリー、放牧場、神庭の滝	田矢 青木 寺田
11	22	火	「秋の馬見丘陵公園」の自然 観察 (自然観察会)	馬見丘陵公園	阿部 山本(美)
12	12	月	「北・山の辺の道」 (忘年ハイキング)	近鉄奈良駅前、円照寺バス停、円照寺 八坂神社、百毫寺、新薬師寺、春日大社	八木 塩本
1	未 定		<b>15周年記念行事</b> 「新春講演会」	講師、演題検討中	未定
2	未 定		「冬鳥探鳥会」	検討中	小田 勝田
3	未 定		「奥明日香歴史ロマン探訪」 (歴史文化探訪)	奥明日香—稲渕から栢森	辻本 杉本 坂東 寺田

(次ページに、詳しい解説を記載しました)

※ 諸般の事情により、実施日、行先等を変更する場合があります。

月例研修会担当 寺田 孝 羽尻 嵩 山中 笙子 山本 妙子

## 平成 28 年度月例研修会 解説

### ◆ 4月 「京都・伏見桃山城と宇治川派流の桜をめぐる」

京伏見の春を楽しむ。伏見桃山城の桜の下で花見の宴。名水の御香宮神社。竜馬通り。幕末史跡の寺田屋。桜まつりが開かれる宇治川派流沿いのお花見。日本酒の資料館月桂冠大倉記念館。

### ◆ 5月 「新緑の奈良公園の自然観察会」 (「自然教室チーム」)

春日大社南門樹齢 800 年とも伝わる古木「砂ずりの藤」等各種の藤が見ごろ。鹿の不嗜好植物の観察(この時期ウラシマソウの観察ができる)など、鹿の生態、歴史等も紹介。

### ◆ 6月 「矢田丘陵の歴史散策」(「歴史・文化クラブ」)

「登美能那賀須泥毘古」(トミノナガスネヒコ)、饒速日命(ニギハヤヒノミコト)についての伝承の地や、卑弥呼の墓ともいわれる富雄丸山古墳など、富雄川上流から矢田丘陵の歴史を探访する。

### ◆ 7月 「京都・鞍馬寺から貴船神社へ歩く」

京都の北の鞍馬・貴船の古道歩き。叡電鞍馬駅が出发点。鞍馬寺は、鞍馬天狗や義経の伝説など神秘的なパワースポット。木の根道を通り貴船神社から涼風の貴船川沿い歩き。

### ◆ 8月 夏季研修会 「草津市立水生植物公園みずの森と琵琶湖博物館を訪ねる」

植物公園は草津市・烏丸半島の東に広がる、日本有数の蓮の群生などをボランティアガイドの案内で観察。博物館では、琵琶湖と人との長い歴史の共存関係を、学芸員のレクチャーで学ぶ。

### ◆ 9月 「大阪の史跡の宝庫 天王寺公園から大阪・上町台地を歩く」

大阪の陣の古戦場跡天王寺公園・茶臼山、聖徳太子建立の四天王寺、伊勢神宮より古い生國魂神社、一心寺・安居神社・三光神社・心眼寺は真田幸村ゆかりの地、細川ガラシヤの聖マリア大聖堂。

### ◆ 10月 15周年記念行事・一泊研修旅行 「岡山県立自然公園と蒜山高原」

第1日目；岡山県立自然公園は、総面積 334ha の広大な自然公園で、カラマツ林や湿原植物、高山植物の宝庫。紅葉の適期にボランティアガイドの案内で園内自然観察を行う。

第2日目；蒜山高原観光。環境省名水 100 選の塩釜冷泉、県境に立つ山々絶景スポット鬼女台展望所、ひるぜんワイナリー、三木ヶ原の放牧場、溪谷林間 日本の滝 100 選の神庭の滝。

### ◆ 11月 「馬見丘陵公園の自然観察会」 (「自然教室チーム」)

この時期ドングリの最盛期。クヌギ、アベマキなどドングリの出来るブナ科を中心に実のなる植物の観察など馬見丘陵公園の秋を満喫。

### ◆ 12月 「北・山の辺の道(円照寺―百毫寺―新薬師寺など)を歩く」

奈良大和路晩秋の古街道ハイキング。近鉄奈良駅からバスで 20 分の円照寺バス停を出发点して円照寺、百毫寺、新薬師寺、春日大社へと歩き近鉄奈良駅前へ。併催の忘年会会場へ向かう。

### ◆ 1月 15周年記念行事「新春講演会」

講師、演題検討中。

### ◆ 2月 「冬鳥探鳥会」

探鳥場所検討中。

### ◆ 3月 「奥明日香に歴史ロマンを求めて散策する」(「歴史・文化クラブ」)

奥明日香は飛鳥川の源流域。棚田が美しい稲渚から川と畑と雑木林が混在する栢森まで、早春の奥明日香の地に歴史ロマンを求めて散策する。

(寺田 孝)

## 平成 28 年度 自然教室チーム 活動計画

(H28.2.17 現在)

月	自然観察会・例会予定
4月	春の奈良公園 桜見物 (4/12) ナラノヤエザクラ他
5月	月例研修会：奈良公園 (5/11) 鹿の生態観察 ウラシマソウ他、鹿の不嗜好植物観察
6月	夏のならやま自然観察会 (6/8) ササユリ他 佐保台小：放課後教室 (6/22)
7月	
8月	平城宮跡ツバメのねぐら入り見学 (8/23)
9月	矢田丘陵自然観察会 (9/20) 佐保台小：放課後教室・昆虫 (9/7)
10月	秋のならやま自然観察 (10/18)
11月	月例研修会：馬見丘陵 (11/22) ドングリ他、秋の木の実の観察
12月	秋の奈良公園 (12/7)、紅葉狩り
1月	冬のならやま自然観察会 (1/11) 春の七草他
2月	
3月	春のならやま自然観察会 (3/8) コバノミツバツツジ他
合計	例研、その他近場の奈良公園、ならやま、平城宮跡を訪ね四季折々の自然を楽しみます。自然観察会等年 10 回程度を予定。

☆自然観察会は気象条件によりお目当ての花の開花時期等予想がはずれる事が多々有りますので、予定日は暫定とさせていただきます。直近の情報は会報誌、HPでご連絡させていただきます。その都度メールで案内も配信させていただきますので、連絡希望者は下記に登録のご連絡をお願いいたします。

連絡先：辻本

## 歴史文化クラブ 28年度の活動について

代表 川井 秀夫

桜の開花予想が発表される頃になりました。間もなく新年度が始まります。

今年当会も発足以来十五周年の節目を迎えました。色々な曲折を経て名実共にそれなりの基盤構築を心掛けて参りました。皆様方のご支援に対し厚くお礼申し上げます。

当歴史文化クラブも今年五年目を迎えます。古代ロマンの宝庫である「大和」を中心に時には県外有数の遺跡・遺構を訪ね、研讃を重ねて参りました。先人の遺した歴史と文化は現代の反面教師でもあります。今年度も以下のように「H28年度年間計画」を策定致しましたのでご参照ください。

今年度も、皆さんと共に楽しんで参りたいと思いますので、奮ってご参加くださいます様ご案内申し上げます。尚、ご意見ご指摘の点あれば、事務局宛てご連絡下さい。

平成28年度 歴文年間計画 統一テーマ「歴史の渚を歩く IV」			
テーマ	内容	備考	時期
湖西の歴史街道を行く	新羅神社・穴太の郷・小野の郷・白髭神社など	探訪 マイクロバス	4月26日
(特別企画) 丹後半島の古代史探訪	古代丹波王国と日本海文化 網野銚子山古墳、元伊勢籠神社、丹後七媛伝説	一泊研修 マイクロバス	5月23日 5月24日
矢田丘陵の歴史散策	富雄丸山古墳・矢田坐久志玉比古神社 東明寺・矢田寺など	例会と共催	6月14日
高見川源流から宮瀧遺跡	丹生川上神社・宮瀧遺跡・吉野歴史資料館	探訪 マイクロバス	7月
オプション			8月
山背古道に日子坐王 の伝承を訪ねる	椿井大塚古墳、高麗寺跡、蟹満寺、 筒木の宮、普賢寺、朱智神社	探訪 マイクロバス	9月
オプション			10月
聖徳太子と秦川勝	渡来系の最大氏族秦氏の事績を訪ねる 広隆寺・松尾神社・伏見稻荷など	探訪 マイクロバス	11月
地元史の深掘りと座学	未定	探訪と座学	12月
オプション			1月
島ヶ原にお水取り発祥の地 を訪ねる	「観菩提寺(正月堂)」を訪ねる	探訪 マイクロバス	2月
奥明日香歴史ロマン	未定	例会と共催	3月
*注 8月、10月、1月は、有志によるオプション行事などを想定している。			

## やさしい昆虫講座 45

「僕の姿がみえるかな？」

木村 裕

以前にマダニなど人や動物に寄生するダニ類を取り上げましたが、あれはダニ一家の一族に過ぎません。まだまだたくさんありますが、今回は樹木や野菜の葉っぱを住処とするハダニ一族を紹介しします。

樹木や果樹、野菜などの葉に寄生するダニの仲間をハダニ(葉っぱにつくダニ)と呼んでいます。体色は黄白色～赤～紅色と目立つ色はしていますが、何分にも大きさが1ミリ前後と小さいので見つけるのはかなり困難です。針に糸を通すことができるような目のよい人なら可能かも。私では無理で虫眼鏡を必要とします。

成虫と幼虫は同じような姿をしており、葉っぱの裏に寄り集まって口ばしを突っ込んで汁を吸います。虫そのものは小さいので吸う量も僅かですが、数百匹の虫が1枚の葉に群がるので塵も積もればで、被害は大きくなります。

最も被害の受けやすいのは、果樹ではナシ、リンゴ、ミカンです。被害がひどいと緑の葉が茶色になってばらばらと落下します。このようになると美味しい果実の収穫は見込めません。

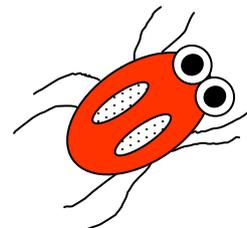
植木ではクロマツです。夏に葉っぱの色が褪せ、茶色になってくるのもこのハダニの仕業です。マツノザイセンチュウによるマツ枯れと間違う人が多いようです。マツ枯れは葉っぱが褐色になって水気がなくなりますが、ハダニの場合は葉っぱの色が褪せているだけで水気は残っています。



汁を吸われた部分は白い点状に色が抜ける

野菜では、ハウス栽培のナスやウリ類(キュウリ、メロン、スイカ)で最も厄介な害虫のひとつとなっています。しかし露地で栽培する家庭菜園では発生しても被害に結びつくことは少ないようです。

ハダニは昆虫よりもクモに近い仲間で、大量に発生すると糸を張り渡して綱渡りを楽しんでいます。成虫は毎日数個の卵(球形)を葉裏に産み、ふ化した幼虫は7～10日後には成虫となりますので、増え方はネズミ算よりも勝ります。



ハダニ

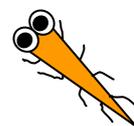
ハダニよりもさらに小さなホコリダニというダニもいます。名前の通り埃のように小さなダニで、一枚の葉っぱに数百匹の虫が寄生しているにも関わらず、視力自慢の人でも発見することはできません。しかし、汁を吸われた葉っぱが独特の形に変形するので発生していることが分かります。この虫がつくのはナスとピーマンなどトウガラシ類です。発生が目立つのは7～8月です。虫は成長点に好んで寄生するので、新葉は十分に開かず堅くなります。よって芯止まり現象が起こります。また、果実は表面が褐色に傷つき肥大が止まります。



ホコリダニ

ホコリダニと同じように非常に小さなサビダニという一族もいます。庭に植えたミカンの果実が褐色になって堅くなるのは、このダニ一家が食事をいただいた結果です。最近ミニトマトでも被害が増えています。茎は茶色になり、果実も赤くならず、褐色のまま硬くなります。

本来はマイナー害虫で、もっぱら無農薬栽培を行う有機栽培や家庭菜園でのみ発生します。ですから、農薬散布を行う農家サイドでは発生しません。



サビダニ



## 隠れ古社寺 ひとり旅 (20)

### 小泉の庚申堂

歴史文化クラブ  
川井秀夫

今年は十干十二支によれば丙申の年。

丙は火の兄(え)の意。俗信によれば火災の多い年と言われる。私の最後?の当たり年、年男でもある。

かねがね猿に因む「小泉の庚申さん」を訪ねたいと決めていたが、この人生最後であろう申年に足を運んでみた。

「小泉の庚申堂」 俗称：小泉の庚申さん

JR大和小泉駅から商店街を抜け富雄川沿いに徒歩で10分。直線の先に門を隔ててお堂が視野に入る。この日は初庚申の前々日に当たり、地元の方々が堂内に詰めておられる。

開基は定かでないが小泉藩主 片桐且元(1556~1615)の守り本尊として加護され、



庚申堂もその頃建立されたのでは。山門前に「一国一宇」と刻した石碑

があり、ひとつの国のひとつの堂宇の庚申さんとの意であろうか。ぐるりと境内をめぐる、山門に灯籠に屋根の丸瓦に猿の彫り物、鐘楼の梵鐘に三猿の紋様が見てとれる。



本尊 青面金剛尊。

正式な寺名は天台宗金輪院庚申堂。ご利益は七難即滅・七福即生と言う。拝礼を終えると地

元の代表の方が「どちらから」「生駒です」「いや～生駒の方が多くこられますねん」「まあまあ坐っとくはなれ」暫し仏教談義に花が咲く。

この地は農業の方が多く、日夜働き詰めなので、60日に一回庚申の日に老若男女が集まり酒肴を挟み、夜を徹して騒ぐんですよ。また、近くの幼稚園児を呼んで「座禅」を15分やらすんですよ、父兄の方はすぐ音を上げますが子供はしっかりやるんですよ。

この方は私の一回り下の申年、饒舌な方で寺の由来、庚申信仰の話など。帰り際には厄除けの猿のお守りまで頂き、再会を約しさわやかな余韻に浸り辞去する。



庚申信仰とは。

中国の民間信仰である道教思想が神道や仏教と習合して伝わったとされ、お札やお神籤もともと道教に由来している。

本尊の青面金剛はインドラの神 帝釈天の弟子で蛇を使い手とし猿を小間使いとして病魔を降伏させると言う。庚申の夜、寝ていると人間の体に巢食う三戸の虫が天帝に罪科を告げ人の寿命が短くなると考えられたそう。聖徳太子の縁起話に三歳の太子が大石に安座して耳を抑え眼を閉じ口を押えた姿を庶民を救う印相として、「三猿」が信仰の対象として今日まで受け継がれている。

信仰とは怖いものですな～。「言う」「見る」「話す」現世は「逆三猿」で行きますか。

尉鷓ヒツヒツと啼き嗤ひ

小山喜与男

ジョウビタキは新年の季語。「モンツキトリ」とも。ひと懐っこい。「泣き笑ひ」を鳥語に変えて形容したところが面白い。

ひたきうし

鷓大人小首かしげて近寄りぬ

小山喜与男

前句と連動。「うし」と読んで大人の意。この鳥は身近な範囲を飛び交う。新年のご挨拶を受けて今年が良いことあるかも・・・。

立春やつきそう影も濃さを増し

八木 順一

短日が少しずつ長くなる。己の影に季節の変化を読み取る繊細な感性。これぞ俳句。この調子で次号も期待しております。

野の草のちよいと洒落に霜衣

八木 順一

霜は作物の大敵。雑草はしたたかですな、お洒落な気分とは。擬人性のある一句。霜衣の季語の斡旋が良い。

朝日さす神体山の梅の露

羽尻 嵩

歴文の三輪山登拝の情景でしょうか。神々しい雰気中に初春を祝う。梅の蕾に露の玉、情感がありますね。今年は吉年ですぞ。

日溜りに翅ひらきたる冬の蝶

西谷 範子

四温の日。蝶が大きく見える。人間様もご同様、暖かい日には縮まった体が伸びる。この蝶は春の魁でしょうか。

手袋を脱ぎ捨て畑の風甘き

西谷 範子

「手袋」が冬の季語。畑仕事で一服、風の感触に春の予兆を感じる。「風の甘さ」の措辞が良い。もう厚い手袋も要らないか。



粥占の湯気巖かに登弥の杜

古川 祐司

竹筒から出る粥の小豆の数で吉凶を占う神事。結果や如何に。寒中の早晩に張りつめた空気が漂う。直会のお神酒にジンとくる。

蠟梅の香ひとり佇む佐保の杜

古川 祐司

某日。佐保の杜を訪ねる。蠟梅の花が真つ盛り。見る人影もなく香気が満ちる。何故皆んな観に来ないの。作者はいささか憤懣の思い。

春浅し寺田屋に見る弾の痕

青木 幸子

4月例会 下見。幕末史の舞台。寺田屋事件の痕跡が残る。作者は今や歴女、想念を巡らしての一句。

春宵やお竜が駆ける桶の風呂

青木 幸子

竜馬襲撃の舞台。入浴中のお竜の機転で難を免れる。風呂場の浴槽が遺物として遺る。作者の弁、帰宅後入浴中にできた一句なのよと。

ひむがしの彩雲確と春立ちぬ

坂東 久平

春の雲は柔らかい形を整える。早暁の光また寸刻に色を変える。早起きの作者の感動が伝わる。これは正に春の情景。

寒椿急きたる道を犬吠える

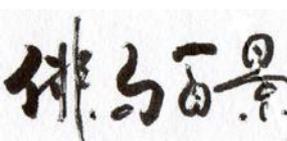
鈴木 末一

良くある光景。犬は人間の異様な動きに吠えることがある。動物の悲しい習性。季節の花を愛でながらゆっくり歩きたいものです。

林中にことりと春の鳴る気配

川井 秀夫

先日、里山の観察路を歩く。何か音が聞こえる様だ。水・風・鳥も。そうだ土中の虫の動く音だ、命の蠢動かも。春は近い。



監修 川井秀夫

# 癒しの散歩道

## 雲居に惑う春への誘い (いざない)

谷川萬太郎

思い出したように降りだす なごり雪に心もどかしい北国の春よ  
 青い海辺の日を待ちわびて 誰もいない白い砂浜に立てば  
 長い冬の静寂をそっと破るよに 優しく誘う春のうねり生まれ来る  
 深い眠りから覚めた潮騒が 心地良く耳元に静かに寄せては返す  
 俄かに湧き上がる白波の飛沫に 浜風に乗った海鳥が目細め啼く



真白いコートを脱ぐように 山肌は冬の衣装捨て小さな春待ち焦れ  
 柔らかな日差しを背に受けて 木洩れ日美しい森の木立や枝葉よ  
 故郷恋しや春花の可憐な蕾に 会いたくて忘れじの里を訪ぬれば  
 朝明けに昇る陽炎ゆらゆらと 清しき森の梢や田畑の色は春支度  
 里の小川の畔に足を運べば そよぐ風に交じりて聞こゆはわらべ歌

# なつやま茶論

## 「幻のダイヤ」

竹本雅昭

赤松東：オーイ聞いた？昔よく出来た松茸が  
 作れないかどうかで山をリフォーム  
 したらって。

赤松西：親父が言ってたっけ、足下にニョキ  
 ニョキ、ほれ、おっちゃんが時々  
 シャーしてる時のあれみたいなのが  
 出来てさ、一時は年だから癌じゃな  
 かとビックリしたって。

赤松東：そうそう茸が出来る頃になると、大  
 勢が七輪・鍋・肉・醤油それに必ず  
 酒持ってあちこちでワイワイ。酔い  
 が回ると芸のないおっちゃんが松茸  
 もって踊り出す。と女性は顔を隠し  
 乍ら間からチラチラ。

赤松西：親父達は「上品な我々の前で失礼な」  
 とより一層赤くなって。時代と共に

車がブツ、ブツと走り、人々も  
 忙しくなってパタリ来なくなって  
 から、山は荒れ放題、虫にもやられ  
 るわで仲間はどんどん減っていった  
 んだ。

翁：農学博士の見立てでは復活の可能性  
 ありとの事。もし高価な香りのダイ  
 ヤモンドができたなら、婚活イベン  
 トを催し、それで多くのカップルが、  
 誕生すれば万万歳だ。

赤松東：そうなればどんなに嬉しいか。例え  
 ばブランド名「子沢山大和松茸」  
 復活のために里山人パワーと我々の  
 頑張りでも明るく陽気に行きましょう。



～終～



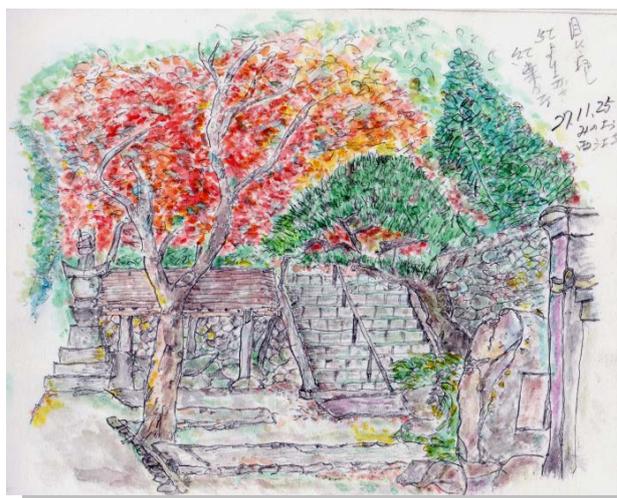
**Gallery**  
**ならやま**



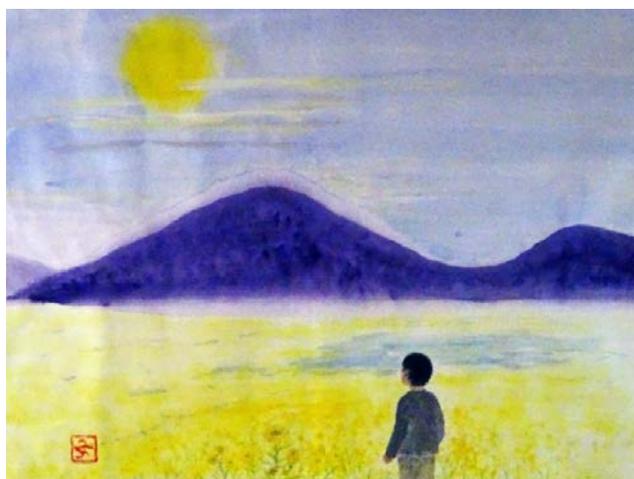
▲田中克彦「お雛様」自然木クラフト



▲小島武雄・陶芸「桜猫」  
黒土、黒化粧、青磁釉



▲八木順一・水彩画「箕面西江寺」



▲羽尻 嵩・墨彩画「おぼろ月夜」



▲有元康人・「大根」4号・オイルパステル



# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
活動予定日

3月	3 (木) 24 (木)	10 (木) 31 (木)	17 (木)
4月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統  
8：28発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統  
8：36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：八木 順一



## 里山 Gr

### 3/3 協働作業の日

AM：協同作業：椎茸植菌、育苗用苗床作り  
PM；コナラのドングリのまきつけ

### 10 薪割り、薪玉集積、薪棚制作

BC南側林縁部のコナラ枯死木伐採・整理  
里山林区分境界のロープ設置・補修

### 17 薪割り、薪玉集積、薪棚制作

BC南側林縁部のコナラ枯死木伐採・整理

### 24 新入会員歓迎会

薪割り、薪玉集積、薪棚制作

### 31 薪割り、薪玉集積、薪棚制作

## エコファーム Gr

### 3/3 協働作業の日

茄子、唐辛子類の苗床に播種  
じゃがいも、葉菜類畝作り

### 10 じゃがいも植え付け

ほうれん草、春菊の葉菜類の播種

### 17 ゴボウ（滝野川大長）ネギ（九条、岩津、下仁田）春まき用大根、ニンジン播種

### 24 新入会員歓迎会

茄子、唐辛子類の植え替え（鉢上げ）  
エンドウ追肥、いちご黒マルチ被覆

### 31 サツマイモ・里芋 予定畑準備チップ入れ

## 景観 Gr

### 3/3 協働作業の日

BC周辺の草刈、池の整備  
黄菖蒲園整備と山野草園柵作り  
安全パトロール

### 10 彩の森竹林伐採・草刈

ならやま池水生生物調査  
シェードガーデン整備と寒肥やり  
観察路周辺の枯木など危険箇所の確認

### 17 第五地区と佐保自然の森の整備

池の整備  
ニラ畑撤去と花生姜植え替え  
観察路の丸太階段補修

### 24 新入会員歓迎会

BC周辺の整備  
ならやま池水生生物調査  
ドイツアヤメ草取り

観察路案内表示板更新

### 31 佐保自然の森畑耕運・堆肥投入

池の整備／夏花床準備  
観察路ポイント13～14の通路整備





## 行事案内 part 1

(馬見丘陵公園の自然観察会)

### 植物たちの春を探そう!!

—冬越しの準備はどのように行われてきた?—

いよいよ春がやってきます。寒い冬や気候変動の激しかった日々…。それら乗り越えて植物たちは春を迎える準備に精を出しています。冬芽の姿やその中味、ロゼットの姿などに、いろいろな工夫が凝らされています。



3月の自然観察会はそうした植物たちの冬越しの準備を馬見丘陵公園でじっくり見て行きます。また、既に春を謳歌している植物たちも大いに楽しみたいと思います。

樹木を中心に阿部が主としてご案内します。また、自然教室チームの皆さんに、草花のインプリ(自然解説)やネイチャーゲームも担当してもらおう予定です。

五感を使ってじっくり観察し、びっくりすること、感動することなど、みんなでいっぱい見つけ



ましょう。たくさんの方のみなさんのご参加をお待ちしています。

詳細は以下の通りです。

1. 日時: 3月14日(月) 10時~15時
2. 場所: 馬見丘陵公園 中央エリア
3. 集合: 公園館前 10時
4. 準備するもの: 食事、飲物、状況により防寒具や雨具、あれば植物図鑑・ルーペ
5. アクセス: 近鉄大阪線一五位堂駅からバス  
(なお、車で来られる場合は無料駐車場有り)  
《奈良交通バスの場所・時刻案内》  
\*近鉄五位堂駅 北口 4番乗り場  
\*33系統 馬見丘陵公園行 9:23発  
\*所要時間約15分、料金280円  
(なお、9:48発もあるが少々遅れる。)
6. 天候による実施有無: 申し合わせによる。
7. 担当: 阿部、倉田 以上

### 3月月例研修会(歴史担当)のご案内 「桜井南部の歴史街道『磐余』を歩く」

「磐余」には履中天皇(17)(五世紀前半)、清寧天皇(22)(5世紀後半)、継体天皇(26)(6世紀中期)、用明天皇(31)(6世紀後半)の各宮の伝承が残されています。聖徳太子が幼青年期の約20年間を過ごしたといわれる上之宮遺跡も、住宅地の一角に保存されています。

また「磐余」は推古天皇(33)の死後、蘇我蝦夷と共に舒明天皇擁立に尽力した阿倍倉梯麻呂や、阿倍比羅夫等を輩出した軍事氏族の阿倍氏の拠点でもあります。

阿倍氏は孝徳朝で政権中枢に関わりますが、藤原氏の台頭とともに勢力を失い、奈良時代以降は北陸・東国方面に勢力を残します。

遣唐使留学生で唐朝に仕え長安で客死した阿倍仲麻呂や、陰陽師の阿倍清明等も阿倍氏の流れをくんでいます。

今回は、桜井南部の「磐余」を歩き、百済大寺の変遷や日本の国家誕生に至る歴史の片隅に光を当て、古代史へのイメージを膨らませていただきたいと思います。

#### 《行程》

JR桜井駅前◎(10時10分)⇒若桜神社(桜の井)⇒石寸山口神社⇒土舞台⇒上之宮遺跡⇒メスリ山古墳⇒阿倍寺跡⇒阿倍文殊院◎(文殊院西古墳、東古墳)⇒吉備池廃寺跡(百済大寺)  
 <昼食>⇒稚櫻神社⇒磐余池跡⇒御厨子神社◎⇒大官大寺跡 ⇒飛鳥資料館◎(入館)  
 バスで橿原神宮駅へ16時解散予定  
 <歩行距離約7.0km> ◎印はトイレ有

#### 《実施要領》

- ・日時 3月29日(火)
- ・集合 JR桜井駅改札口前10時10分
- ・携行品 昼食、飲み物、雨具等
- ・世話人 寺田、中井、藤田、古川

※案内資料は当日お渡しします。なお歴史の詳細資料(18頁)をご希望の方は藤田までご連絡ください。メール(PDF)でお送りいたします。

## 行事案内 part 2

4月月例研修会 —お花見ハイキング—  
「伏見桃山城と宇治川派流」の桜!

「近鉄丹波橋駅」を起点に「近鉄桃山御陵前駅」まで、様々な名所、旧跡を訪ねながら京都・伏見の春を楽しむハイキングです。

まず平安京を興した「桓武天皇陵」を経て、「伏見桃山城」城内広場でお城の桜をめりながら、お花見の宴を予定しています。1時間半程ですが、各自お酒持参も結構です。「桃山城」は桜の割に人出が少なく、京都花見の穴場だとか。

午後は、「御香水」で有名な由緒ある「御香宮神社」の石庭を見学、「竜馬通り」から幕末史跡「寺田屋」を見学後、今回のお花見の第2の目玉「宇治川派流沿いの桜」を堪能しながら散策、「長建寺」を経て、試飲ができる酒の資料館「月桂冠大倉記念館」に立ち寄り、「会津藩駐屯地跡」から「近鉄桃山御陵前駅」へ向かいます。

変化に富んだ京都・伏見の桜ハイキングです。多くの方のご参加をお待ちしています。

1 実施日：4月4日(月) 雨天順延 6日(水)

【順延の場合：3日午後7時に会メールで連絡します】

2 集 合：近鉄丹波橋駅改札口(京阪連絡改札)

午前10:00 【大和西大寺9:25—京都線急行—9:54 近鉄丹波橋】

3 行 程：

近鉄丹波橋駅—桓武天皇陵—伏見桃山城—御香宮神社—(竜馬通り)—寺田屋—宇治川派流沿い—長建寺—月桂冠大倉記念館—会津藩駐屯地跡—近鉄桃山御陵前駅

歩行距離・時間 約10km 2時間50分

4 持参品：お弁当 雨具他ハイキング装備

5 担 当：川井 青木 寺田



## 新入会員歓迎会

◆日 時：3月24日(木)

午前9時：受付開始

12時～14時半：懇親会

新入会員の方には自己紹介をお願いします。

(雨天順延時の予備日は：3月31日(木))

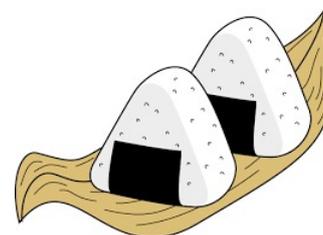
◆場 所：ならやまベースキャンプ

◆会 費：500円(新入会員は無料です。)

◆メニュー：バーベキュー・焼きそば・おでん



今回は更に蕎麦クラブの皆様による手打ちそばを、わんこ蕎麦で頂きます。



※各自おにぎりをご持参ください。

※なお、お皿とお箸などもお忘れのない様にお願いします。

※ ノーマイカーデー(アルコールが出ますので電車・バスでの来場をお願い致します。)

※ 昨年度途中で入会された方も新入会員として歓迎させていただきます。

奮ってご参加ください。



4月ならやま活動&行事予告

\*ならやま活動

4月 7日 協働作業の日

\*月例研修会 行事案内 part 1 に掲載

\*歴文研修会 湖西の歴史街道に行く

月 日：4月26日(火)

集 合：西大寺駅南口 8:30 (マイクロバス)

場 所：新羅神社・穴太の郷・小野の郷・・・

\*アースデー2016 in なら

月 日：4月24日(日)

場 所：国営飛鳥歴史公園 石舞台芝生広場

\*地域行事(佐保川わいわい桜祭り)

月 日：4月 2日(土) 雨→3日

場 所：佐保川小学校グラウンド

★詳細は4月号に掲載します。

奈良学クイズ

古仏とお雛様  
を写真のように  
配して飾り、公

開している寺院について

【問1】寺院の山号をお答えください。

【問2】創建されたのは何年ですか。

西暦と和暦の両方をお答えください。



【締切】3月6日(日)

【応募方法】メール(鈴木)

【景品】自然木作品etc

【2月号答え】(1)法隆寺(2)堺市



仲間入りしました

私は、1月14日に入会しました青木芳一(あおきよしかず)です。京都府八幡市から、昭和60年に奈良市に転入しました。住んでみて、少し不便ですが、ゆっくり流れる時間が気に入っています。生まれは横浜です。自宅の近くにある平城山のサイクリングロードは、長年私の散歩コースです。その時に、着々と進める山林、竹林、水田、畑、果樹園等の整備が、当会の自然保全のボランティア活動であることを知り、興味を持って見ていました。近所に住む塩本様、三瀬様から当会の活動内容について説明していただき、誘いを受けました。自然環境保全とボランティア活動は常に意識しており、主旨に賛同し加入しました。趣味は山歩きで新緑、紅葉、四季の花々を楽しみにしています。見よう見まねで家庭菜園をしていますので、農園作業に参加して作物の成長の楽しみを味わいたいと思います。指導していただき、少しずつ知識を増やしたいです。出来るだけ当会の行事に参加して、会員の人々と親睦を深めたいと思っています。今後共よろしくお願ひします。



超美味しい  
大根汁ラダ

- ① 大根を千切りにし冷水に晒す。
  - ② 水切りしお皿に盛り付け、鰹節を振りかける。
  - ③ 醤油大匙2、ごま油大匙2、酢大匙2、味噌小匙1、砂糖小匙1、すり胡麻大匙1を合せたドレッシングを鰹節の上から全体にかける。
  - ④ 暫くして全体をよくかき混ぜる。
  - ⑤ もみのりをたっぷりと散らして完成。
- ※ ごま油と鰹節の風味が抜群で、ドレッシング



はたっぷりかけるとより一層美味しくなる。※是非一度お試しくささい。

(エコファームG)

## 平成28年・2月度幹事会報告

日時:平成28年2月2日(火)17時~20時20分

場所:奈良市佐保川地域ふれあい会館1階会議室

出席者:顧問・幹事20名(欠席者2名)

### 議事:

#### I.会長挨拶(下記報告並びに説明があった。)

- ①「ならコープ」本年度報告と次年度助成申請
- ②ベースキャンプ、トイレ修理
- ③ベースキャンプ、入口・池周辺植樹計画
- ④薪完売、薪棚の新增設を検討
- ⑤ソバ栽培作業(今後の帰属を関係者で協議)

#### II.会計・事務局報告

1. 事務局報告:
  - ①会員数:151名(1名増)
  - ②イベントキャップ88名配布済み
  - ③通常総会5月21日(土)開催予定
  - ④次年度会費納入期限(3/末)通知
2. 会計報告:今回新たに用途別支出明細追加

#### III.活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月スケジュール、当月スケジュール確認:
2. ならやまプロジェクト関係:
3. H28年度グループ別予算要求は、全体予算検討の上次回幹事会以降に承認を諮る
4. 活動報告と予告:
5. 実施報告:
6. その他報告事項:  
シイタケイベント、ならやま里山整備
7. その他(下記報告並びに検討要請があった)

- ①交通費補助予告
- ②第5地区水道水検討要請
- ③更衣室設置要請
- ④洋式トイレ採用要請

#### IV.広報関係:ネイチャーなら3月号編集内容確認

#### V.企画会議:「活動の指針」を新たに設ける事とし条文紹介するも内容表現再考する事となった。

企画会議では並行して会則見直し検討中

次回幹事会は3月1日(火)午後5時、  
佐保川地域ふれあい会館にて開催予定。

以上

### ◆ 申し合わせ ◆

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



#### ◆地球温暖化

COP21がパリで開催され、炭酸ガス削減の目標を決定した。気温の上昇は、目標が全て達成されても、今世紀末に3度と予想される。温暖化による問題点として、海面上昇、気象の凶暴化等が挙げられる。

もう一つの問題として、海洋の酸性化がある。海は、炭酸ガスの25%、熱の90%を吸収し、地球の安定を保ってきたが、そろそろ限界らしい。

炭酸ガスの吸収で、PHが8.2から、今世紀末には7.8まで下がると予想されている。この影響で生態系に重大な変化が起こり、サンゴの死滅から植物プランクトンの減少が予想される。

一方、多くの気象学者は、現在は1400~1800年の「小氷河期」の回復期であると主張している。

何れにしても、化石燃料の無駄遣いは止めた方が良いでしょう。(行々子)

### 会報誌[ネイチャーなら]・第170号

発行:奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表:坂東久平